

言語活動の充実を目指した小学校国語科 「書くこと」の指導の在り方に関する研究 —報告する文章を書く指導を通して—

I 研究の概要

本研究は、小学校国語科「書くこと」の領域において、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育成することをねらいとして、言語活動の充実を目指した指導の在り方を追究するものである。小学校学習指導要領の言語活動例に示された報告する文章を書く指導を通し、指導の在り方を具体化する。

具体化にあたっては、「児童に身に付けさせたい書くこと的能力を明確にすること」「育成すべき能力を身に付けさせるための指導過程を構想すること」「児童の思考・判断を促す手立てを具体化すること」の3つの取組を生かした単元構想に基づく「単元を貫く言語活動」を位置付けた授業実践を行い検証した。

II 成果と課題

検証授業の結果、「書くこと」を児童の主体的な思考・判断が生かされる課題解決の過程にしていくということは、「児童が主体的に学習に取り組み、目的に応じた文章を自らの力で書けるようにすること」であり、そのための方策を具体的に学ばせ、自分の表現に生かせるようにしていくことであることが見えてきた。方策の基は、学習指導要領に示された指導事項であり、指導事項をより具体化して「書きぶりを学ぶ」ことと「自分の表現に適用する」ことを行き来させながら学習を進めることにより、児童が主体的に学習に取り組むことができるようになることが分かった。3つの取組を生かした単元構想に基づく「単元を貫く言語活動」を位置付けた授業は、児童の学習に対する関心・意欲や課題解決に対する意識を高めるのに有効であり、分かってできる楽しさを味わうことのできる学習過程となった。また、学習過程が児童の主体的な思考・判断が生かされる課題解決の過程になることで、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育成することにもつながっていくことが分かった。授業づくりにおいて「書くこと的能力系統表」「書くことカルテ」「領域別年間指導計画」「文章の種類別教材系統表」「9つの学びの過程」「ワークシート」「書きぶりを学ぶためのプレゼンテーションソフトウェアを活用した提示資料」「学習の手引き」の成果物を作成できたことも研究の成果として挙げられる。成果だけでなく、研究をより実践に生きるものとするために2つの課題が残った。違う種類の文章での実践と検証を積み重ねていくことと読むことと書くことを総合的に捉えた指導の在り方を考えていくことである。最後に研鑽の場を与えてくださった全ての方々に感謝し、研修報告とする。（奥野田小学校 堀井ますみ）